



## 3. 事業実施内容

事業の名称
高効率空調への更新による省エネ化の実現
エネルギー価格の高騰による自社への影響（設備の導入・更新前の状況を記載してください。）
<p>店舗に設置していた空調設備は、約15年以上前に設置したもので劣化も激しく、電気代高騰の影響を直に受けている状態にあったことから、令和5年12月に設備を更新した。</p> <p>また、冬の季節には、暖房機能が正常に稼働せずストーブも同時に稼働させていたため、灯油の消費量が増えた。さらには、エネルギー価格の高騰も重なり灯油のコストも大幅に増加した。</p>
取組内容
（取り組み内容を具体的に記載してください。また、設備の導入・更新により、自社の負担緩和と経営体質の強化にどうつながったか（今後の見込みでも可）についても記載してください。）
<p>劣化した空調設備を省エネ性能に優れた最新型の高効率空調に更新したことで、『電気代の削減』、『灯油消費量・コストの削減』及び『消費電力の削減』効果があった。</p> <p>また、高効率空調への更新により、従業員の就労環境並びに作業効率改善につながることも考えられる。</p>
設備導入・更新による効果
（設備の導入・更新による効果（今後の見込みでも可）を、具体的な数値を用いて記載してください。）
<p>【電気代】 令和4年12月 ○○○万円 → 令和5年12月 ○○○万円（○○%削減）</p> <p>【灯油消費量・コスト】 令和4年12月 ○○○ℓ・○○○円 → 令和5年12月 ○○○ℓ・○○○円（○○%削減）</p> <p>【消費電力】 令和5年 ○○○Kw → 令和6年 ○○○Kw（○○%削減見込み）</p>

## 参 照

### ○「電気代等」を比較対象とする場合

…電気代等を導入・更新前後で比較し、その効果を図る。

(例) 蛍光灯からLED照明への入れ替えを行ったケース

	導入・更新前	導入・更新後	効果
月々の電気代	10万円	8万円	△2万円(20%削減)
年間の電気代	120万円	96万円	△24万円(20%削減)
1時間あたりの消費電力	60W	45W	△15W(25%削減)

### ○労働生産性を比較対象とする場合

…労働生産性を設備の導入・更新前後で比較し、その効果を図る。

(参考)労働生産性とは、従業員一人当たりの付加価値額を言い、付加価値額を従業員数で除したものの。労働の効率性を計る尺度であり、労働生産性が高い場合は、投入された労働力が効率的に利用されていると言える。

・労働生産性の計算式(\*会計上の減価償却費)

$$\frac{\text{(営業利益+人件費+減価償却費*)}}{\text{労働投入量}} \\ \text{(労働者数 又は 労働者数} \times \text{1人あたり年間就業時間)}$$

### ○エネルギー使用量(原油換算値)を比較対象とする場合

…エネルギー使用量を設備の導入・更新前後で比較し、その効果を図る。

・埼玉県ホームページにおいて、事業者の使用エネルギーが原油換算で何kLになるかを簡易に計算するためのシート、「原油換算チェックシート」が公表されていますのでご参照ください。【<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0502/ontaikeikakusyo.html>】

### ○その他

…設備製造メーカー等が作成したシミュレーションにより、その効果を図る。

\*上記は一例です。期待される効果が図れる方法であればその他の方法でも構いません。